

## 神戸港中期計画（案）の概要

### 1. 計画策定の背景と目的

2017年（平成29年）、神戸開港150年を迎えた節目の年に、概ね30年先を見据えて今後、神戸港が目指していくべき将来像を示した「神戸港将来構想」を策定した。

「神戸港中期計画」は、将来構想の目標年次が概ね30年と長期にわたる構想であることから、近年の社会経済情勢も踏まえつつ、この構想を着実に推進する為、概ね10年間（2030年代前半）に取り組むべき内容や方針を示すものである。

### 2. 目指すべき方向性

神戸港将来構想（2017年）策定以降、新型コロナウイルス感染症拡大により顕在化したサプライチェーンの変容をはじめ、世界的なカーボンニュートラルによる脱炭素化の動き、自然災害の頻発・激甚化など、社会を取り巻く環境が大きく変化しつつある。

神戸港中期計画では、将来構想に掲げる目指すべき姿を見据えつつ、昨今、急速に変化しつづける社会経済情勢の動向を踏まえ、「港湾・産業」「にぎわい・都市」分野ごとの方向性に沿って取り組んでいく。

#### 《「港湾・産業」分野》

『グローバルサプライチェーンの中で、世界から選ばれ続ける総合物流港』

- ・コンテナターミナルの一体利用
- ・多様な海上輸送モードの充実（在来貨物）
- ・倉庫等の物流施設の更新、高度化
- ・カーボンニュートラルポート(CNP)の形成
- ・AIターミナル形成、DXを通じた生産性や労働環境の向上
- ・耐震、高潮・津波対策
- ・神戸港港湾BCPの充実

#### 《「にぎわい・都市」分野》

『非日常の空間を提供し、国内外からの来訪者を魅了するみなと』

- ・都市の魅力を高め交流人口を誘発
- ・海路・空路を活かしたまちづくり・誘客

# 4 ゾーニング【港湾・産業】



